

「みんなが自慢できる民商」を強く大きく

名古屋南民商第6回定期総会を開催



議長の高田さんと福永さん

奥野常任理事が開会を宣言、福永常任理事(星崎)と高田常任理事(名南)を議長に選出し総会は始まりました。
まず初めに、来賓を代表して、日本共産党名古屋市政会議員の佐橋さんより挨拶をいただき、消費税増税反対や、憲法改悪反対の動きを進めていく決意が語られました。
方針案の提案に立った板平会長は、この一年間の活動の上で、引き続き増税反対に加え、憲法改悪の危険な動きを阻止する闘い、経営問題をはじめ切実な要求を実現する運動を提案、特に方針も運動も、一

名古屋南民主商工会は5月20日(火)、日本ガインフォーラム(南区)で第6回定期総会を開催し、代議員62名、評議員1名と来賓・事務局も含め総勢72名が参加しました。



活動方針案を提案する板平会長

役員も部員も増えました

部の役員ではなく、みんなで作りに上げていくのが民商であることが強調されました。報告を受けた討論では、4人が発言しました。

最初に発言した婦人部長の手嶋さんは、「昨年新たな取り組みとして、パソコン記帳会を開催しました。婦人部の役員会の後と別の火曜日の月2回開催しています。最初は苦労していましたがだんだんと慣れてきて、パソコンを使いこなせるようになりました。パソコン記帳会を通じて、

新たに役員を引き受けてくれる方やその中で婦人部の仲間になって頂いた方もいます。今後新しい行事を開催していきたいと思っています」

「死の町」の放射線

今年4月18日から20日まで愛商連婦人部の福島視察交流ツアーに参加した、みどり支部の森さんはツアーの感想を報告。
「浪江町に入るには検問所があり、本来は1人ひとりの身分証と地元の議員さんが同行しないと入れなかったんですが今回は、共産党の馬場議員の配慮で中に入ることができました。」

浪江町の中はだれも住んでいない家、荒廃した畑、ぐしゃぐしゃに壊れた船や車が点々と放置されていて、とてもびっくりました。

放射線の除染作業をバスの中から見ていたんですけど除



婦人部の活動報告をする手嶋さん

染袋を置いておくところがなく山積みになれ、中には破れて中身が飛び出している物もありました。

そこからは放射線が漏れているとの説明もありました。誰もいないところにただ除染用の黒い袋が点々とおかれているだけ。
ただだれもいない、何もされないままの広大なところは、まさに「死の町」そのものでした。

脱原発、再稼働反対を一人でも多くの人に伝えていきたいと思っています。」

豊明支部の新田班に所属する奥野常任理事は今年初めて、班会の開催に挑戦しました。「会員同士のつながりを強く、支部の活動を活発にするには班会が一番。ぜひ開催しよう」と、今年初めて開催しました。

そうとは言っても、班会の実際は、むつかしい話は最初の30分位で、その後は、一杯飲みながらの交流です。

でもそのお蔭で、それまでうまく行っていなかった配達・集金の対策が具体化できました。」

裏へ続く

2014年 平和大行進 名古屋市内集中行進

日時：6月8日(日)

南区コース

9:00 源兵衛公園集合 9:30 出発

名南病院を經由して七里の渡し公園まで

緑区コース 9:30 新海池公園集合 10:00 出発

熱田区コース 9:30 七里の渡し集合 10:00 出発



坪井さん

民商で相談して 心強かった

新入会員の大高支部の坪井さんは、「昨年5月までサラリーマンをやっていました。仕事のほうで行き詰まりを感じていたところ、たまたま仲のいいお客さんから独立したら仕事をあげるよ、と言われる自分の中で一念発起してここでやってみるか、と決心して、独立することを決めました。」

とお客さんに話をしに行ったら、うちは法人じゃないと取引しないよと言われる法人を作らないうといけなくなりどうしようかと母親に相談したら、民商さんがあるから相談してみたらと言われ、わらにもすがる思いで駆け込みました。法人設立の知識が全くない私に親切にいろいろ教えてく

れ7月中ごろに無事に自分で法人を作る事が出来ました。

その時、思ったのが商売について相談できるところがあるのは非常に心強いという事ですね。」

どの発言も、民商の値打ちが輝く発言でした。

今回は日本共産党から、緑区の佐橋議員、前山豊明市議、満仲愛知県議会予定候補、高橋名古屋市議予定候補、西田名古屋市議予定候補、南部法律事務所勝田浩司弁護士、名南会の平松博之さんと多くの来賓が参加頂きました。

このほか11の団体・個人の方から祝電やメッセージが寄せられました。



表彰を受ける清水副会長と中野名南支部長

全商連第51回総会と全商連共済会第23回総会開催

改憲・増税の暴走政治にストップを！地域に根を貼った強く大きな民商づくりに決意を新たに！



5月24日(土)・25日(日)に全商連第51回総会が、そして26日(月)に全商連共済会第23回総会が開催され、名古屋南民商から、全商連総会には、板平会長、三浦副会長、平岡事務局長の3人が参加、共済会総会には山口副会長、共済会理事長が参加。

総会会場の新宿ランドホールは全国から八〇〇人を超える参加者の熱気であふれました。

あいさつに立った国分会長は「憲法改憲、10%増税に反対するたたかいで中小業者の底力を発揮しよう」と呼びかけました。

岡崎事務局長は全商連第51回総会方針案の重点を報告。地域を主戦場に対話、宣伝を進めて増税を打ち破る展望を切り開くことを提起しました。

全国の民商の発言にビックリ

地域の対業者比率のトップは兵庫県兵庫民商。会員38%読者61%で年間二〇〇人の会員を拡大、税務署の前任の総務課長も読者だったそうです。

東日本大震災の復興に大奮闘の宮城県気仙沼本吉民商は復興グループ補助金獲得に力を入れ33社で11億円を受けました。また地元の中小業者60社で災害公営住宅の建設を受注できました

19年前から法人の集団申告を続けているのは広島県広島北民商。法人対象の学習会を毎月開いて決算月の同じ人が一緒に集団で申告しています。

始めた時はなかなか理解してもらえなかったが、毎月の学習会を通して今では集団申告に参加する法人が大半になった。



群馬県高崎民商は高崎市長が3年前、民商総会にあいさつに来て以来、商工新聞の読者に。

リフォーム助成が一千万を超え、補助金は総額1億8千万円。その後リフォーム助成の商店版、リニューアル助成制度が実現し1店舗50%の補助で一〇〇万円が上限の制度を作り直しました。

総会では47都道府県から48名が発言。どれも情熱のこもった発言でした。

総会方針案は満場一致で採択。

新しい方針案は代議員の満場一致で採択されました。全国的に地域の対業者比10%にあたる31万8千人の民商建設をめざし読者前面の拡大に取り組むことを決め今後の奮闘を誓い合って閉会しました。